認知症ケア加算が病院運営に与えた影響　その１

～認知症サポートチーム活動はケアの向上に繋がる～

清水 みどり[1)] 髙橋 陽子[1)] 星野 晴彦[2)] 神澤 孝夫[3)] 美原 盤[3)]

1)(公財)脳血管研究所　美原記念病院　看護部

2)(公財)脳血管研究所　美原記念病院 地域医療連携室

3)(公財)脳血管研究所　美原記念病院 医師

[はじめに]認知症患者に対するケアの質の向上を目的とし認知症ケア加算が新設された。当院ではこれに対応するため認知症サポートチーム(DST)を組織し､認知症ケアに取り組んだので報告する。

[取り組み]DST は医師、認知症専門看護師、薬剤師、相談員から構成され、週 1 回、各病棟の看護師と共にラウンド､対象患者は行動･心理症状(BPSD)のエピソードから自立度を判定し選定し、患者の療養環境や治療薬剤の確認、非薬物療法の検討を行った。

[結果]BPSD のエピソードでは｢チューブ類の自己抜去｣と｢転倒転落リスクのある単独行動｣が多かった。療養環境の見直しではベッド周囲の安全対策の確認、薬剤に関してはポリファーマシーの検討、非薬物療法では畑作業の導入検討が多く、DST による対応策がそれぞれの BPSD 改善に寄与していた。

[結論]認知症ケアにおいて DST 活動は BPSD の症状緩和に有用である。